



第64号
平成31年2月28日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL 0224-72-2020
URL <http://www.igukou.com>
発行責任者 鈴木英晴

印刷所
佐藤印刷株式会社



「住みたい町を創るワークショップ in伊具高校」パートII

同窓会会長
佐藤吉市

会員の皆様には平成31年の新春を穏やかに迎えられましたこととお喜び申し上げますと共に、お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。

30年度、母校からの卒業生82人が同窓会に入会することになります。心から歓迎すると共に大きく羽ばたき、伊具高校の名声を広げて頂きたいと希望するものです。

平成23年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から、丸8年目を迎えようとしています。沿岸部の復興もスピード感が落ちてきておりませんが、被災沿岸部の街並みは安全な場所に移転、新たな町づくりが進み、久しぶりに訪れてみるとビックリするようには様変わりしているのには驚きです。

仙南地方も放射能汚染された農林業系廃棄物（稲わら・牧草・堆肥・ほだ木）の試験焼却が始まり、環境に注意し住民の理解をもらいながら仙南クリー

ンセンター内で混焼しています。全量焼却には数年かかる見込みです。丸森町でも放射能汚染による民家周辺の除染が行われ、その廃棄物は除染置き場に保管されておりますが、その廃棄物の処理方法が決定しておらず、現状のままであり、いつ仮置き場がなくなるのかめどが立っておらず、放射能汚染の影響はまだまだなくなっていないのが現状です。

母校は30年春に、庄司校長が退職され高橋光弘校長が着任されました。新校長は着任早々「阿武隈川は洋々と」と名付けた学校通信を発行し、町内に配布し、地域密着した高校としてアピールされ、頑張っておられる様子には頭が下がります。また、30年12月には同窓会会員である丸森町長保科郷雄氏が無競争で3期目に当選するなど、明るいニュースがあります。保科町長にも地元の高校として、機会あるごとにアピールしていきたいと

有難い言葉を頂いており、同窓会会員の御支援をいただきながら、伊具高校の存在をお知らせする機会がみられるこのごろです。

30年11月13日に、丸森町議会と伊具高校の生徒との議会懇談会が、29年に続いて第2回目の「住みたい町を創るワークショップ in伊具高校」として開催されましたので、その内容を同窓生の皆様にお知らせいたします。

①目的「議員の目的」
②未来を担う若い世代から、地域に対して普段感じていることを聞いて、地域の課題を明らかにし、今後のまちづくりの政策に反映させる。
③少子高齢化時代に「どうすれば地域に若者が定住するか」若者の意見を聞き、早期に対策を図る。
④議会と町の将来について、心を高めてもらう。
⑤生徒の目的
⑥民主主義社会を担い、より良い地域社会づくりに主体的に参画する生徒の資質・能力を育成する。
⑦選挙権年齢を18歳以上に引き下げた平成27年6月の公職選挙法の改正を受け、参政権に係る学習の場（機会）とする。
⑧社会の一員として自立し、権利と義務の行使を通して、積極的に社会形成・社会参加に関わろうとする態度を身につける。
⑨社会参画に係る実践力の育成を通して、地域社会が抱える具体的な課題の解決に係る体験的・実践的な学習の場とする。

当日午前9時より11時45分まで、伊具高校の第2体育館で行われました。参加者は議員12名、生徒は2年次生27名で、懇談会はワークショップ形式で行われました。参加者同士が話し合いや共同作業を行い、グループ（班）の意見をまとめていく会議です。今年の司会進行役は高校の職員2名で進められ、1班に議員2名、生徒4名で構成、7班（7テーブル）編成、110分の時間内で始まりました。懇談会のメインテーマを「自分が住みたいまちはどんなまち」とし、サブテーマは「(1)あなたが町長だったら、どんな町にしたいですか。(2)将来、丸森町に住むには何が必要ですか。(3)地域へ貢献するために、高校（本校）はどんな取り組みができますか。」と設定しました。

最初は生徒の皆さんも緊張の様子が見られましたが、議員たちのリードもあり、雰囲気は大変良くなり、笑いも見られ、すばらしい会議になりました。まとめは7班から各リーダー（生徒）が総括して発表するのですが、話し上手でユーモアを込めて元気にわかりやすくまとめてくれたのには、議員さん達も驚いていたようです。終了後は議員全員と関係者一同で、校長室で学校食堂の昼食を試食して解散しました。

懇談会の内容を議会事務局でまとめましたので、お知らせいたします。

①あなたが町長だったら、どんな町にしたいですか。
・安心安全な環境をつくる。
・若い人が住みたいと思うような町にする。

・大きい観光スポットをつくり観光客を呼ぶ。
・自然を生かしたテーマパークをつくる（例 イノシシ村）。
②将来、丸森に住むには何が重要だと思いますか。
・イオンモールのような大きなお店がある町。
・働く場所が多い町。
・子供を育てる施設。
③地域へ貢献するために、高校はどんな取り組みができますか。
・ゴミ拾いなどの地域ボランティア。
・町内イベントに参加する。
・地域貢献に関心を持つ。
・等々、いろいろ意見をいただき、議会でも懇談会が有意義と判断し、高校・議会との話し合いで3回目を実施する事で決定しております。

議長より、「様々な意見を積極的に出してくれた。少しでも行政に反映できるよう議会として努めると感想をのべていただきました。」

(農業20回・大内支部)





地域に貢献する学校として

学校長

高橋 光弘

同窓会の皆さまには、日ごろより本校の教育活動に対し、心より御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年度4月に着任して、もうすぐ1年になります。98年の歴史と伝統を誇る宮城県伊具高等学校に就任し、同窓会の皆さまに温かく迎えていただき非常に嬉しいかぎりです。8月5日の本部同窓

の健康管理の推進(6)4系列の特長ある教育活動の推進(7)創立100周年記念事業に係る準備の推進」を掲げて取り組んで参りました。

今年度は学校の取り組みや生徒の活躍について「学校通信」阿武隈川は洋々と」(カラー版は本校ホームページ <https://igu.miyawad.jp/> に掲載)を発行し、学校関係者、関係機関をはじめ、地元丸森町内すべての行政区に回覧していただき、報告させていただきました。生徒の頑張りは素晴らしいです。農学系列の春の苗販売とザンビア研修生との交流会は河北新報やNHKにも取材していただきました。地元企業ケーヒン様や町の花壇植栽にも取り組みました。機械系列では全日本製造業コマ大戦しばた産業フェスティバル

場所で開催され、3位を獲得しました。福祉系列では、介護職員初任者研修の現場実習への積極的な参加、大内まちづくりセンターとコラボしたお菓子作りに取り組みました。情報系列では恒例の齋理幻夜での「幻夜新聞」発行や運営に協力しました。農業クラブでは全国砂像甲子園での準優勝、全国そば打ち選手権

さて、今年度76名の入学生を迎え、全校生徒251名で新たな気持ちでスタートいたしました。本年度の重点目標として、『(1)開かれた学校づくりと特色ある学校づくりの推進(2)主体的・対話的で深い学びにつながる授業力の向上と基礎学力の向上(3)基本的な生活習慣やマナーの定着指導と活気ある学校づくりの推進(4)希望進路100%達成に向けた組織的な取組(5)清掃指導の徹底と心身

大会出場や県の家畜審査競技会乳用牛の部において団体の部も個人の部も最優秀賞を獲得しました。文化部においては、吹奏楽部の吹奏楽コンクール、写真部の高校写真展で入選など多くの活躍がありました。電気機械部では電気自動車エコラン競技in SUGO 四輪部門で今年も優勝・準優勝という素晴らしい結果がありました。また、各種コンクール等へ参加し、多くの入賞を果すなど大いに活躍してくれました。運動部では仙南総体においては、陸上部、剣道部男子の活躍、県総体においても各部一所懸命に戦いました。新人大会においては、卓球部の県大会出場、陸上部の県下高校駅伝の大幅な記録更新や投てき競技での活躍がありました。

昨年度に引き続き、町議会議員の皆さまと2年次生徒との「住みたいまちづくりワークショップ」に取り組みさせていただきました。生徒たちは丸森町をこんな町にしたいという考えを沢山持っています。このように生徒が真剣に取り組もうとすることが地域を元気にしていくと確信しています。今後とも地域と連携してワークショップ等を開催してまいりますよう、地域の皆さまと同窓生の皆さまの御理解と御協力を頂戴できますようよろしくお願いいたします。

次に、進路面においては、生徒の希望する進路実現に向け「進路保証100%」を目指し、計画的・継続的に進路指導に取り組んでおります。近年、大学・専門学校へ進学希望もあり、今年度は東北学院大学に2名が合格しています。就職希望者においては、地元県内志向が増加傾向にあります。保護者の皆さまの御理解を得ながら、共に、同窓生の皆さまの御支援を頂き、地元定着が継続するように努めてまいります。

最後になりますが、本校は2年後の「2020年」東京オリンピック開催年に、創立100周年を迎えます。同窓会の皆さま、PTAの皆さま、地域の皆さまとの連携をさらに進め、皆さまと一緒に記念事業成功に向けて努力してまいります。

創立100周年を迎える本校の歴史と伝統に敬意と感謝の気持ちを心に刻みながら、地域になくしてはならない学校を目指すとともに、予測できないこれからの時代を生き抜く力を備えた「生きる智慧」に溢れた生徒の育成に努めてまいりますので、今後とも母校の発展のために、同窓会の皆さまの御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成30年度総会報告

8月5日(日) 午後3時
(評議員会 午後2時)



- ◎協議事項
 - 一 平成29年度事業
 - 二 平成30年度事業計画・予算案審議
 - 三 母校創立100周年記念事業について
 - 四 その他
- ◎懇親会

国民宿舎あぶくま荘 午後4時

総会に先立って行われた評議員会では総会提出議題が審議され、特に母校創立100周年記念事業に関して活発な討論がなされました。

祝受章

旭日単光章

佐藤 勇 幸 様
(本男26回・大張支部)



佐藤勇幸様
におかれましては、多年にわたり丸森町議会議員として

地方自治の振興と町政の発展に尽力されたとして、旭日単光章を受章されました。

佐藤様は昭和58年に丸森町議会議員に当選され、平成11年まで4期16年にわたって町議会議員として活躍されました。

大張地区では今日でも井戸水を生活用水として使っているのですが、水道の必要性を訴え続け、議会で水道の敷設を要望されてきたそうです。その甲斐あって現在地区内で水道敷設の工事が行われ、間もなく竣工される運びとなっています。また大張小学校は町内で最後まで木造校舎でしたが、新校舎の建設を強く要望し実現されました。オープンスペースを設けるなど最新の設備が整った校舎となりました。ただ、生徒数の減少を心配されています。

佐藤様は同窓会でも大張支部の支部長として、現在の支部活動の礎を築いてこられました。また、若いころは大張・耕野地

区や角田市でも民謡の教室を開かれ、週10か所、200人もの生徒を指導されていたそうです。このような精力的な活動から、丸森町文化協会会長も務められました。さらに丸森町文化財友の会会長や大張地区老人クラブ会長にも就任され、地域になくはならない方となりました。奥様も婦人会の会長をなさるなど、ご夫婦で地域活動の中心的な役割を担ってこられました。

このたびの受章に際しましては、議員としての活動はもとより地域での幅広い活動が認められた結果だと思えます。おめでとうございます。

(事務局 鈴木英晴記)

瑞宝単光章

横山 英 夫 様
(本男26回・大内支部)



横山英夫様
におかれましては、多年にわたり丸森町消防団大内分団長として町の防災活動に尽力されたとして、瑞宝単光章を受章されました。

横山様は佐藤様と同級生で、母校在学中は根っ子入農場の開墾や学校から除北農場まで人糞を運んだことなどが思い出深いそうです。

親睦を深め母校を支える13支部

本会には県内外に13の支部があり、母校と連絡しながら会員相互の親睦を深め、母校の発展と地方文化の向上を目的として活動しています。近年は母校創立100周年を間近に控え、支部の活動が活発になり、多くの方々に参加いただいています。創立100周年の記念すべき日を多くの同窓生の方々に祝っていただくためにも、さらに多くの皆様にかかわっていただきたいと考えています。

支部の活動に興味をお持ちの方は、同窓会本部 鈴木 (TEL0224-72-2020) までご連絡ください。

本会の支部

- 丸 森・金山・大内・筆甫・小斎
- 大 張・耕野・館矢間・角田・柴田
- 白 石・仙台・関 東

昭和28年大内村消防団に入団し、班長・部長・副分団長を経て、同59年に大内分団長となり、平成2年まで37年にわたり消防団活動に携わってこられました。横山様は「消防団だけでなく、後援会や婦人防火クラブの協力があつてこそ防災活動が成り立っており、こうした人々の協力に感謝している。」と話され、そのお人柄が表れています。特に予防活動には力を注ぎ、春の山菜取りの季節の山火事防止や、昭和4年1月16日に大内地区を襲った大火を記念した大火記念日の広報活動のことをお話していただきました。

消防団活動以外にも町の農業委員会の委員をはじめ、隈東土地改良区や丸森町農業協同組合の監事を務められ、地域の発展に貢献されました。



89歳とは思えぬ若々しさで、今後私たちに指導していただく。ありがとうございます。

母校図書館へ寄贈

小野 正 彦 様
(普通5回・丸森支部)

平成30年3月、小野正彦様から学校図書館に16冊の図書を寄贈していただきました。小野様には以前にも豪華なカラー写真の入った書籍など59冊を寄贈していただいています。今回は読みやすい新書本を中心に頂戴しています。母校に長くお勤めになり、現在は学校評議員としても母校に様々な提言をいただいています。ありがとうございます。

いただけるものと確信しています。どうぞお元気で過ごしてください。(事務局 鈴木英晴記)



(事務局 鈴木英晴)

総会には丸森町長・角田市長はじめ、母校からも多くの先生に参加いただき、会場一杯の46名の参加となりました。昨年度事業・会計報告および今年度事業・会計予算案が審議・承認され、母校創立100周年記念事業に関しても会の総力を挙げて支援していくことを確認しました。今年度は校長先生から県立高校将来構想答申中間案の概要についても説明していただきました。

人命救助への消防表彰



二階堂 和 成 様
(総合6回・金山支部)



浅田 利 教 様
(農業24回・金山支部)

このたび二階堂和成様と浅田利教様におかれましては、4月4日に金山地区で発生した事故において人命救助を行ったとして角田消防署丸森出張所で表彰状が贈られました。

二階堂様は浅田様から委託を受けて農作業をしていた際、後方で物音がしたので振り返ると、トラクターが横転して人が下敷きになっていたそうです。すぐにその場に駆けつけアルミ製のはしごでトラクターを持ち上げ、負担を軽くしようと努めました。その間に浅田さんも駆けつけ消防



感謝状

浅田利教殿
あなたは平成三十年四月四日午後五時四十五分頃丸森町金山宇長根地内で発生したトラクターの転落事故に際し自らの危険を顧みず男性の救助に尽力されました。あなたの迅速で勇敢な行動は他の模範でありその功績は誠に顕著であり、この功績をよびこに深く感謝の意を表します。
平成三十年四月十四日
山南地域広域行政事務組合
角田消防署 半澤 正勝

に通報し、事故に遭った方の奥様と息子さんも駆けつけ、4名でトラクターを持ち上げ、何度も声がけをして励ましました。その後、救急車やレスキュー隊が駆けつけ、現場は騒然となりましたが、対応が素早く適切だったこともあり、大事に至らずにすんだとのこと。

二階堂様はその1年前に事故で腰を悪くしていたにもかかわらず、それを顧みずに対応されています。現在は地元で就職しながら、休日には自宅での農業のほか、委託業務もおこない、さらに消防団活動で地域に貢献されています。母校在学中は電気機械部に所属し、ロボットコンテストの全国大会でも活躍されました。

浅田様は母校在学中の思い出として、梅の木平や根つ子入農場、養蚕室での食料を持参しての宿泊実習をあげられました。農業クラブ活動では干し草の品評会に出品されたことが今でも思い浮かぶそうです。また、農作物をリヤカーに乗せて売り歩いたことや、学校で生産した白とコーヒーの「雁歌牛乳」についても懐かしく話されていました。現在は永年勤められたお仕事を退職され、農業を営まれているそうです。

お二人の瞬時の対応と責任感には頭が下がるばかりです。心が寂しくなるような事件・事故が多い中で、心温まるお話を伺うことができました。

(事務局 鈴木英晴記)

会員の声

皆さんへ期待すること

木村 和 紀

(農業21回・館矢間支部)

50年も前の事になります。農業実習や野球部での3年間は大きな思い出です。専用グラウンドはなく、ボールが見えなくなるまで練習しましたが、先輩後輩の上下関係意識醸成等の時間の経過が印象的で、この関係は現存しており、小野正彦監督を囲んでの集いは今年も2月に催され、思い出話に華が咲いた事は言うまでもありません。今更ながら、野球を通して自分を育んでもらった事に感謝です。在校生の皆さんもこんな仲間がいるといいですね。作って下さい。

最近「シチズンシップ教育」という言葉を耳にしました。地域社会でどのように振る舞うかという考え方のようです。社会の問題を解決するため、情報を咀嚼し、手段をどうするか、どのように合意形成していくかと社会参加を学習するもので、教科の枠をこえ、生徒会・課外活動ともリンクし進められる様です。

このような時に、「住みたい町を創るワークショップin伊具高校」と題して、町議会議員との懇談会が開催され、多くの課題等が発掘されたようです。心の根を地域に根ざし、他者と協

同しながら地域に生きる人間として何をすべきか、何ができるかを考えていく。その姿を中学生にも見せつける。職場・地域社会・住民あるいは行政にとつて、地域の高校が町にとつて豊かな資源となるよう関わって行くべきです。4年後には柴農と大商が統合する予定です。本校が、そして後輩の皆さんが、地域や行政にしっかりと根付いた存在にある事を切望してやみません。

初見伊具の宝めぐみ

佐藤 浦子

(生活22回・耕野支部)

国道349を右に曲がり、ボネットの前が見えないS字の昇坂を200m進んだ先、対面には小高い山「赤芝山」が広が、絵画で夢見た光景が・・・『ここだー！』と大興奮。あの日から、4年の月日が流れています。

伊具高校に通う毎日。モダン橋を渡り、あまり気に留めていなかったふるさとの風景。看護師時代は、愛と勇氣と感謝の中、急ぎ足で過ぎていきました。

実家からあぶ急が見え、阿武隈山脈の朝日、お月見やまも変わらない景色ですが、いつもの生活に阿武隈渓谷である猿跳岩や兜岩があり、赤芝山の四季が紅葉・雪景色・若葉で、旅心を楽しませてくれます。耕野は、干し柿・たけのこで

有名ですが、住んでみて、本物の作り方、美味しさの彩りを初めて知りました。

静けさの中で、川の響き、小鳥の歌声、あぶ急が時を告げるように聞こえてきます。赤芝山から昇るオリオン星座に話しかけると夜中3時、北斗七星にオレンジの流れ星3つ。自然と寄り添えるお楽しみ。今の時期は、子供の頃の思い出、炭コタツが冬を暖めてくれます。

看護師時代に興味を膨らませていた、人とふれあい、身体と心がほぐれる手技に感銘し、大自然の真善美を感じられるテラスで、まあるいふんわり雪景色の様な感じを届けられたらと、私自身もいつしよに元気になれるサロンを始めたいです。

天井が3mより高く、ダンスも出来るような板の間には、私の気持ちの分身のような絵と図録や、見えない心のつながりを教えてくれる本があります。

皆様のご縁に感謝して、成長する丸森を楽しみながら、生きていきたいと思っております。かしこ

野球のおかげで

私の店がある

渡 辺 良 仁

(商業8回・丸森支部)

私は丸森町で小さな弁当屋をほそぼそと営んでいられるのは伊具高での部活(野球)をやっていたからこそだと思っております。

ます。

思えば中学校からやっていた野球を他校の友人に誘われ、入部をしました。1年から2年の上がる頃、新監督との指導のあり方に違いを感じ、友人と退部届を出したものの、1年生時の担任の先生と呼ばれ、「他部員の事や卒業後の将来の自分の為に退部は考え直せ。」と言われ、退部をしない様に止めていただき、3年間、なんとか部活を続けました。結果、無事就職もし、職場でも野球で地域の方々との交流を深められ、現在でも行き来しておりますし、又、伊具高OBで大先輩方や後輩とグリーンカップや東北大会など、町内の町議会議員や店主様のご支援を受け、色々と経験をさせて頂きました。現在でもジュニアソフットの県内の他校の先輩方と全国大会を経験でき、全国に友人をもてる様になりました。



こうして、現在「えがお」の店を営むことができるのも、野球の関係の皆々様のご指導やご利用していただいているおかげだと心より感謝しています。現在、当校の野球部が休部となっ

ていることを聞き、非常に残念でなりません。冬、雪が積もると町内の街かどの歩道を野球部の生徒が雪かきをしてくれていたのを観て、すごく感動したものでした。自分の感情をすこし抑えて、他人の野球熱のある方々や指導者の方に、是非、野球部を復活させてもらおう事を祈ってやみません。そして又、グラウンドに大きな声でボールを叩きかける勇姿をOBとして観たいと思っています。

「おかげ」
私くし達の思いが
思いのままに遂げられるのは
この世でのご縁があったから
そして

あなた方のお世話があつたから・・・
私は、いつもこの詩を観て、毎日の仕事に励んでおります。機会があつたら、一度寄つていつて下さい。

卒業からの10年間

渡邊 優希

(総合学回・角田支部)

私が伊具高校総合学科を卒業してから10年が経ちます。思い返してみれば高校生活の3年間もあつという間に過ぎて行きましたが、卒業してからの10年間もあつという間に思えます。毎日の生活で精一杯で、気が付くと1年間が終わっているのをしみじみと感じている中で、5年ほど前からあるサークルに

所属しています。それは「丸森ウインドサークル」という団体で、伊具高校吹奏楽部卒業の先輩方が立ち上げた吹奏楽サークルです。在学中には吹奏楽OB・OGとの関わりがあり、演奏会などもしていました。卒業後は疎遠になっており、楽器を吹く事もなくなっていました。そんな時、同級生から演奏会へ誘われ参加したのがきっかけで入団しました。

就職して仕事にも慣れ、生活も落ち着いてきて余裕が持てるようになったところだったので、共通の趣味を持った方達との関わりは、生活に充実を持たせてくれました。現在は12名と少人数ですが、学生に戻ったような感覚で、懐かしさと楽しさを感じながら日々の練習に励んでいます。他の団体との交流も増え、大人数で演奏する機会が多くなり、更なる充実を実感しています。新しい出会いも多いですが、中学の同級生など懐かしい出会いもありました。さまざまな年代の方たちとの関わりは生活に刺激を与えるだけでなく、仕事にも役立つ知識も与えてくれて、日々成長させてくれます。

今後多くのお出合いを大切にしていき、人との関わりを通じて、自分自身をもっともつと成長させ、一人前になれるよう努力していきたいと思っています。丸森ウインドサークルではメンバーを募集しています。昔、楽器をやっていた方、音楽に興

クラス会だより

君の名は... 50年目の同級会。

松本 幹郎

(農業20回・小斎支部)

宮城県伊具高等学校昭和44年3月卒業。今から遡ること50年前。当時の農業科・商業科・生活科A・生活科Bの4クラスによる合同同級会が平成30年8月27日、福島市飯坂のホテル聚楽で開催された。

当時の1クラスは55名と64名の大所帯。教室は満杯状態のため、机の間を蟹の横ばいで歩かざるを得なかったため、むやみに離席をしないことが肝要とされてきた。幸か不幸か当然に担任の巡回もできなかった。

団塊の世代のベビーブームに続いて誕生した我ら昭和25・26年生まれ。雁歌の里で苦楽を共にした3年間、蛍雪の功なつて無事に卒業したのが50年前のことであった。

4科ごとにそれぞれ同級会は行われてはおつたものの合同は初めてである。多分、最初で最後になるのであるだろうか。

「やあ久しぶり」、「今何してるの?」、「ところで君は誰だっけ?」無理もない、半世紀ぶり

の再会であり、全員それなりの風貌で名前と顔が一致しないのはあたり前。部活を除けば4科の交流は多いとは言えなかつたし、各科横断的な付き合いも少なかつたようだ。しかしながら、アルコールの進み具合とともにすっかり打ち解けあい、会場内驚嘆と笑い声が飛び交って、話の渦がこちらこちらにできていた。

総数247名中65名と参加率は高くはなかつたが、懐かしさに包まれながら密度の濃い時間を送ることができたのである。みんなの会話からは生涯現役が読み取れてくる。悠々自適の世界はどこにあるのか、定年延長、再雇用などの人もいて、何らかの仕事に就いている者の多さに今の社会背景があると痛感させられるとともに、一応高齢者の仲間入りをしたとはいえず、活力に満ちた世代であると改めて実感した。

一次会、二次会と長時間を有意義に過ごした同級生達は又の機会に思いを馳せ、再びの出会いに期待を込めながら会場を後にした。



宮城県伊具高等学校昭和43年度卒業生同級会 平成30年8月26日 於 福島市 飯坂ホテル聚楽

母校だより

宮城県伊具高等学校

創立100周年

『記念事業』について

教頭・実行委員会事務局

西村 明夫

同窓会会員の皆様におかれましては、益々御活躍のことと喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対し、御理解と御支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

本校は、大正9年（1920年）に郡立「宮城県伊具農蚕学校」として創立、昭和23年（1948年）に「宮城県伊具農蚕高等学校」へ改称、同38年（1963年）に現在の「宮城県伊具高等学校」へ校名変更、平成11年（1999年）に総合

校木「桑」の木とお別れ

母校正門を入ると左側に樹齢200年といわれる校木の「桑」の大木が、右側の県木「けやき」とともに立っておりましたが、倒木の危険が生じたため、平成31年1月に伐採されました。この木は本科男子16回卒業生の佐藤忠義様に昭和52年5月に寄贈していただいたものです。今後も校木は「桑」の木でありますが、母校を見守ってきたこの「桑」の木に感謝をしたいと思います。



さて、会員の皆様もすでに御承知のとおり、本校は、東京で

学科へ学科改編し、現在に至っています。

本校はこれまでに多くの卒業生を社会に送り出してまいりましたが、その数は既に14、100名を超え、仙南地域はもとより社会の各分野で活躍し、広く本県の発展に貢献されております。

現在、本校では農業の学習を主とする『農学系列』、工業・機械科の学習を主とする『機械系列』、商業の学習を主とする『情報系列』、そして福祉と家庭の学習を主とする『福祉系列』、この4つの系列を柱として、総合学科の特色を生かした教育活動を実践しておりますが、これ

からも本校の良き歴史と伝統を継承しながら地域社会の発展充実のために、学校を挙げて取り組んで参りたいと考えております。

さて、会員の皆様もすでに御承知のとおり、本校は、東京で

二度目のオリンピックが開催される平成32年（2020年）に創立100周年を迎えることになりませんが、このことを記念して既に「宮城県伊具高等学校創立100周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、来る創立100周年のために準備を進めているところです。

創立100周年を記念して計画している事業は、以下の6事業です。

第1に『宮城県伊具高等学校創立100周年記念式典』です。事務局といたしましては、平成32年11月、本校の第二体育館を会場として創立100周年に相応しい式典を開催いたします。

第2といたしましては、『宮城県伊具高等学校 創立100周年記念誌』の発刊を計画しております。これまでの創立記念の際に刊行されてきた記念誌を総結集したものとするような記念誌にいたします。

第3に『宮城県伊具高等学校創立100周年記念祝賀会』の開催です。創立100周年を記念すべく、本校に関係のある皆様方が一堂に会せる場としたいと考えております。

第4に、『宮城県伊具高等学校創立100周年記念講演及びアトラクション』の開催です。記念式典の終了後に、創立100周年に相応しい講師による記念講演と、アトラクションの実演を計画しております。

第5に『宮城県伊具高等学校創立100周年記念感謝状贈

呈』です。長年本校の教育活動の発展と充実に御尽力をいただいた方々に対して、実行委員会より感謝状を贈呈し、その御貢献に報いたいと考えております。

第6に『宮城県伊具高等学校創立100周年記念品』です。創立100周年を記念し、思い出に残るような記念の品を、本校関係者各位に御用意したいと考えております。可能であれば、本校の4系列に教育の成果を形に表せるようなものにしたたいと考えております。

平成31年の年を迎えて、いよいよ本校創立100周年の年が目前にせまっております。

同窓会会員の皆様におかれましては、創立100周年記念事業を成功に導くためにも、今後より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

家畜審査競技会

最優秀賞を受賞して

2年 吉田 愛海

私は宮城県学校農業クラブ連盟家畜審査競技会乳用牛の部で個人・団体ともに最優秀賞を受賞することができました。

私は牛を見たこともなく、学校でも飼育していませんので、牛のことを全く知りませんでした。しかし、学校で先生から詳しく教えていただくうちに興味がわいてきました。

放課後、選手のみならず勉強会を行いました。そのときに牛

の見方で良いところ・悪いところの見極め方を教えていただきました。尻が下がりがりすぎると排泄するときに乳房にかかり、病気になるってしまふことを知りました。特に注意することは乳房です。配点が多いということもあり、模型や写真を見ながら詳しく教えていただきました。各部位に一つずつ見るポイントとその理由があることに驚きました。

大会では緊張してしまいましたが、先生方に言われていたことを思い出しながら、選定していきましました。最終的には自分が本当に良いと思った牛を選ぶことができました。日頃から指導していただいている池田先生にわかりやすく教えていただいたからこそだと思います。競技会を通して私は牛が好きになり、もっと牛に触れてみたいと感じることができました。ご指導や応援してくださった先生方がありがとうございます。



系列紹介「機械系列」

母校は平成11年度から「総合学科」に学科改変し、現在、「農業」「機械」「情報」「福祉」という、科目選択の目安である4つの系列が設置され、生徒は学習に励んでいます。3回目となる今回は機械系列を在校生が紹介します。

機械系列紹介

2年 中島 貴明

伊具高校には農学・機械・情報・福祉の4つの系列があり、どの系列もさまざまな技術や資格を身につけることができます。その中でも機械系列について紹介します。

私は機械系列に所属しています。機械系列ではコンピュータ制御による最新工作（NC・MC）の操作、溶接、旋盤技術、設計、製図などを学ぶことができ、とても幅広く機械について学ぶことができます。また、たくさんの資格を取ることもできます。1年次生ではアーク溶接、2年次生ではガス溶接、計算技術検定3級、機械検査、危険物取扱、3年次生ではフォークリフト、旋盤作業などの資格を取ることができます。普通の学校では受けることのできない資格があり、資格取得をすることにより機械系の仕事に就いた時に有利になります。私は



ガス溶接技能講習

私は、資格取得をすることにより機械系の仕事に就いた時に有利になります。私は

たくさんの資格を取るために頑張っています。2年次生になるとものづくりにコンテントや溶接技術競技大会などに出場することができ、県内の工業高校と技術を競うことができます。私は溶接技術競技大会に参加したことがあります。溶接技術競技大会は他の学校ではあまり体験することができないので、良い経験になりました。私はまだ2年次生なので、これからものづくりコンテストに出場する機会があると思います。また、出場したいと思っています。また、伊具高校の先輩方が入賞したこともあるので、自分も入賞できるように頑張りたいと思います。私は機械系列に入り、とても良かったと思っています。私自身、たくさんの機械の技術を学ぶことができました。また、先生方がとても面白く、優しく丁寧に授業を教えてくださいただけのも理由の一つです。私はこれからも機械について学び、将来に生かせるように頑張っていきたいと思っています。



アーク溶接特別教育

課題研究

競技コマの製作を通して

3年 太田 勇貴
私たちは本年度課題研究で、

競技コマの製作をテーマに取り組みました。昨年度、先輩方が初めて全日本製造業コマ大戦に参加したと聞き、興味を抱いたからです。

先輩方はコマを2つ製作し、2チームを編成し参加しましたが、1勝もすることができなかったと聞きました。私たちは今年の大戦で、先輩の分まで、最低でも1勝することを目標に掲げ挑戦しました。しかし、スタート早々に壁にぶつかりました。それは競技コマを製作する知識がないということでした。実際に製作してみると、昨年度のコマと変わらないコマができました。そこで私たちは仙南マシニングクラブの方々にご教授を受け、コマを作ることを考えました。私たちは企業の方々や形状はもろろのこと、重心や回転時間、回す方向など細部にわたりデイスカッションしました。この時、私は企業ではこのようにして製品を作りあげるのかと感じ、少し高揚感に包まれました。加工などでも外観や体裁を意識した加工法に感銘を受けました。実際に大会に参加すると準優勝と第3位という結果を得ることができ大変満足しました。

このコマ製作は4月から社会人になる我々にとってとても貴重な体験となり、この経験を会社でも生かしたいです。最後に御協力いただいた仙南マシニングクラブの方々に心から感謝いたします。



生徒の活躍

- 仙南総体陸上競技大会
 - 女子ハンマー投 山下紀羅里
 - 第2位
 - 男子5000mW 加藤 駿希
 - 第3位
- 全日本吹奏楽コンクール 県大会予選名取、仙南地区大会
 - 高等学校小編成の部 銅賞
- サンドクラフトinみたね 砂像甲子園大会
 - 準優勝
- 仙南高等学校美術展
 - 奨励賞 吉田 晏瑠
 - 南山賞 高橋 秀耶
 - 書道協会賞 釵明あすか
- 県学校農業クラブ連盟 家畜審査競技会
 - 肉用牛の部個人 奨励賞 阿部 里紗
 - 電気自動車エコラン競技大会 in SUGO
- 四輪部門
 - 優勝
 - 第2位 ジュニアクラス
 - 第6位入賞
- 県学校農業クラブ連盟 家畜審査競技会
 - 乳用牛の部団体 最優秀賞 吉田 愛海
 - 個人 優秀賞 朝井 成美
- 仙南新人陸上競技大会
 - 男子ハンマー投げ 大條 竜矢
 - 第1位
 - 女子ハンマー投げ 南條 有香
 - 第3位
 - 男子砲丸投げ 高橋 優希
 - 第3位
 - 男子3000mSC 岸浪 明里
 - 第3位
 - とくらマラソン大会 男子の部 岸浪 明里
 - 第3位
 - 仙南高校新人剣道大会 男子団体 第3位 岸浪 明里
 - 山元町卓球大会 団体の部 第3位
 - 全日本製造業コマ大戦 特別部門しばた産業フェスティバル場所 準優勝
 - 第3位
 - 高校生ものづくりコンテスト 宮城県大会旋盤作業部門 優秀賞 稲垣 璃久
 - 優秀賞 吉田 星希
 - 中島 優太
 - 高野 勇輝
 - 仙南高校写真展 銅賞 森 愛花梨
 - 銅賞 八巻 呂亜
 - 仙南地区納射会 一年生の部 高橋穂乃佳
 - 第1位

支部だより

角田支部総会

小形とき子

(生活20回・角田支部)

平成30年度伊具高等学校同窓会第4回角田支部総会・懇親会(支部長 湯村勇)が平成30年5月27日(日)、角田市尾山山入「内町荘」で開催されました。角田の5支部が統合して4年目となります。

角田市長の大友喜助様・丸森町長の保科郷雄様には快くご臨席を賜りました。佐藤吉市同窓会長、学校からは校長先生はじめ6名の先生方に出席していただきました。また、大張支部長の大概孝雄様・館矢間支部長の斎藤誠様にもご臨席を賜り総勢35名となりました。

開会の前に角田支部恒例の校歌を斉唱し、開始しました。



高橋光弘校長先生より後輩達が総合学科の特色を生かし、あらゆる面で活躍し良い成果を残していること、また、野球春季大会・仙南総体等の様子・結果の報告

がありました。それから同窓会長様、角田市長様、丸森町長様からご挨拶をいただき議事に進み、平成29年度の事業・会計報告、平成30年度の事業計画の提案があり承認されました。

その後出席者全員で記念撮影を行いました。

懇親会では、3年後に迎える創立100周年記念事業について話題になり、教頭先生から今後の経過についてお話しいただきました。支部としてどのような関わりができるのか考えさせられました。今から楽しみです。その後会員それぞれの思い出話に花が咲き、楽しい時間を過ごしました。いつものことですが和やかな雰囲気で大いに盛り上がりました。

平成31年度の第5回角田支部総会・懇親会は平成31年5月26日(日)に開催する予定です。

毎年楽しい

大張支部総会

大槻正儀

(農業24回 大張支部)

今年度も平成30年7月28日、伊具高等学校同窓会大張支部の総会が、あぶくま荘で開催されました。

総会には懇親会が付きもので、平成25年以来毎年楽しく出席をさせていただいております。小生は、平成24年以前の大張

支部の活動や総会のことは実はよく承知しております。大張地区内には同窓である先輩後輩が大勢おられ、地区内の会合はテーマや場所、日時に変わりがあっても、メンバーは多くの伊具高等学校同窓生で占められ、日常的にあたかも同窓会が開催されているようなもので、正直なところ支部の必要性を感じませんでした。



平成25年8月に支部会則や役員をあらたにしてからは、支部組織の充実や会員への確実な連絡方法を構築して、意思の疎通が図られています。

現在のところ、支部の活動は定期総会と懇親会のみですが、全会員への等しい情報伝達は、会員としての意識向上につながったと感じております。

今年度の総会・懇親会には、大槻孝雄支部長以下会員25名の出席のほかに、佐藤吉市会長、小形とき子、菊地清明、湯村勇各副会長、高橋光弘校長、鈴木英晴教諭、保科郷雄丸森町長らのご臨席を賜り、盛会裡に開催されました。情報交換交流会では、2020年11月に予定されている伊具高等学校創立100周年事業の

ことや、課題である入学者の不足解消などについて意見が交わされました。

若い会員や分校卒業生の参加が少ないなど、支部としての課題も少し見えてきました。

これからも、支部活動の充実を図り、皆で地元と学校を盛り上げてまいりたいと思うところです。

平成30年度

小齋支部総会開催

松本幹郎

(農業20回・小齋支部)

平成30年度小齋支部の総会が平成30年7月30日に小齋まちづくりセンターで開催されました。11名が参加して開会、横山博昭支部長からは、母校の100周年を目前にして当支部としてもその盛り上げとなるような活動を進めたいとの熱い思いが述べられ、全員が心を一つにし100周年を迎えようと意を新たにしました。

また、来賓としてご臨席いただいた佐藤同窓会長並びに高橋校長より、同じく100周年を成功させようとの力強い祝辞が述べられました。

協議はスムーズな議事進行により提案された議案が異議なく承認されましたが、その後の情報交換に入ると現在の母校の様子や当時の思い出話がだんだん熱を帯び、時間の経過も忘れて

ワイワイガガガの総会となりました。

なお、同窓会鈴木事務局長より2年後(2020年)の創立100周年記念事業について説明いただくと、そこに質問も集中し、母校の節目を飾る記念事業に対する期待の大きさを物語っております。

今年度より母校の制服が変わったようですが、少子化からか、小齋から通学する生徒が少なくなつてその姿を目にする機会も減ってきておると実感しています。我々同窓生としても母校への志願者が増えるような取り組みがなされることを望ますにはおられません。

閉会後に会場を出ると、折しも小齋まちづくりセンター裏山のイベント「物見櫓ライトアップ」が目飛び込んできました。櫓を照らす照明と稜線のように流れる提灯の灯りが夜空を彩り、この夏の暑さを吹き飛ばしてくれるものがありました。

編集後記

今年度入学生から男女とも黒を基調とした制服に変わり、母校が創立100周年を迎える2020年にはすべての年次が新制服となります。後輩たちには新たな気持ちで、母校の歴史を築いていって欲しいと願ってやみません。

同窓会事務局

鈴木英晴 池田友利